

順天堂医院ニュース 2026 NO.96

予約診察室リニューアルのご案内

このたび予約診察室では、患者さんにより利用しやすい診療環境を整えるため、診察室を新たに3部屋増設いたしました。これまで曜日や時間帯により予約が取りづらい場合がございますが、今回の増設により、予約枠の確保がしやすくなることが期待されます。これまでご利用のない患者さんも、この機会にぜひご利用をご検討ください。

予約診察室について

予約診察室は、各診療科で経験を積んだ専門の医師が、予約時間を確保して診療を行う診察室です。落ち着いた環境で、ゆとりをもってご受診いただけることに加え、待合室ではパーティションを設けるなど、プライバシーにも配慮しています。専用受付では、受付から会計、薬のお渡しまでスタッフがご案内いたします。（ご利用にあたっては、通常の診療費とは別に予約料を頂戴しております。）



予約診察室
紹介動画



2026年4月1日付で順天堂大学大学院医学研究科病院管理学教授を拝命いたしました。整形外科・緩和ケア科・リハビリテーション科の講座内教授も併任となります。

私は1988年に本学を卒業後、整形外科に入局し、外傷や人工関節などの臨床研修後に骨軟部腫瘍医になることを志し、栃木県立がんセンター・米国メイヨークリニック留学・静岡がんセンターなどを経て大学に戻り、リハビリテーション科・緩和ケア科の併任をさせていただきました。がんの運動器診療、とくに骨転移診療を通じて、領域横断的な臨床・教育・研究に携わってきました。各がん診療科や看護師・薬剤師・理学療法士などとの連携を大切にして、2011年から骨関連事象カンファレンス(SREC)を開催し、現在まで当院における骨転移や運動器障害を伴うがん患者さん3000名以上の診療に関わらせていただいております。

3年前から医療安全機能管理室長を拝命し、医療安全や病院の第三者評価など病院の様々な管理の仕事もしております。がん患者さんの運動器診療で培ってきた領域横断的な視野は、病院管理においても大変重要なことであると感じています。今後はがん運動器診療と病院管理についてさらなる発展を目指して、微力ながら順天堂に貢献したいと思います。



病院管理学
高木 辰哉





メディカル・コンシェルジュの看護師が患者さんをサポートします！ ～私たちの役割と取り組みのご紹介～

メディカル・コンシェルジュでは、専門外来による診療だけでなくセカンドオピニオン外来、臨床遺伝外来、SOGI 相談窓口など様々な患者さんのニーズに対応しています。その中で看護師は、医師や事務員と連携しながら患者さんをサポートする役割を担っています。

【専門外来】

専門外来では、看護師が難病をお持ちの方や、物忘れが気になって受診される方などのご相談に応じています。日々の療養に関する指導に加え、認知症疾患医療センターや地域の見守りサービスなどにおつなぎし、患者さんご家族が地域で安心して暮らせるよう支援しています。

また、「順天堂難病医療ネットワーク」という取り組みを通じて、難病連携医療機関やお近くのクリニックに通院する患者さんにも、当院に定期的な受診いただける仕組みを整えており、看護師は医師と協力しながら患者さんご家族を継続的にサポートしています。

【SOGI 相談窓口】

SOGI 相談窓口は、性のあり方（多様な性）について配慮を必要とされる方が、受診や入院をされる際の支援を行う窓口です。専門の医師と看護師が同席し、ご相談してくださった方が抱えている困りごとを、一つでも一緒に解決できるよう努めています。

ご本人はもちろん、ご家族や、医療従事者の方からのご相談もお受けしていますので、どうぞお気軽にお問い合わせください。





前立腺がんに対する新治療“ルテチウム PSMA 治療”のご紹介

2026年2月よりルテチウム PSMA 治療の運用を開始しました。

ルテチウム PSMA 治療とは？

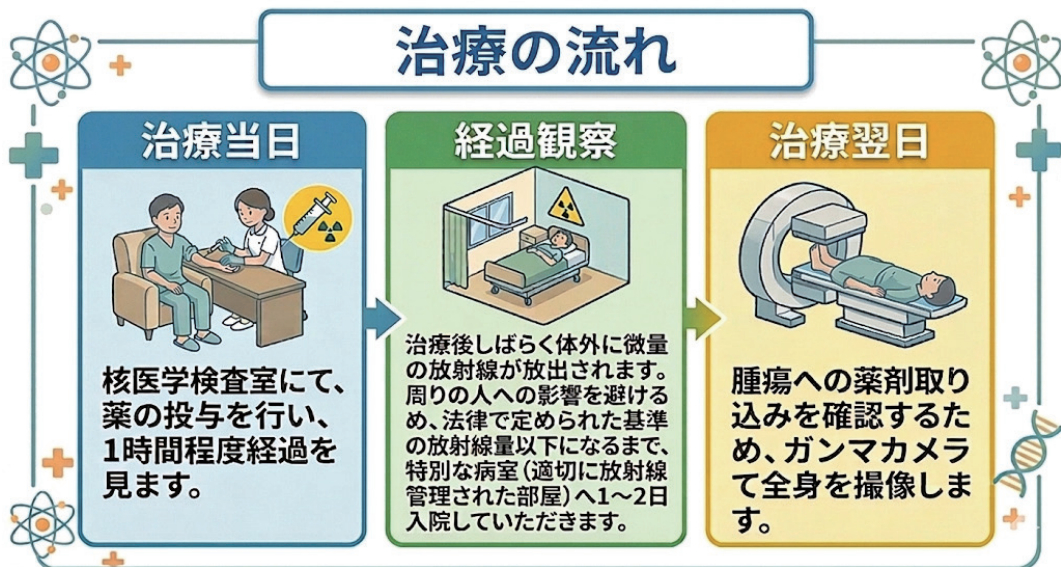
これまでの治療（手術や放射線外部照射）とは異なり、放射線を出す薬を体内に直接投与する放射線治療です。

治療の仕組み：前立腺がん細胞の表面には「PSMA（前立腺特異的膜抗原）」という目印が多く存在します。投与された薬は、この目印を正確に見つけて自動的に集まります。

内側からの攻撃：体内に入った薬から放出される放射線（ベータ線）が、がん細胞を直接攻撃します。

この治療の大きな特徴

1. **ピンポイント攻撃で副作用が少ない** 放射線の届く範囲が数ミリと非常に短いため、周囲の正常な組織への影響を最小限に抑え、効率よくがん細胞を攻撃できます。
2. **全身に広がったがんにも対応** 骨やリンパ節など、全身に転移した小さな病気にも届きます。
3. **身体への負担が少ない** 通常、6週間間隔で最大6回、薬の投与を行います。外科的な処置を必要としないため、体力の低下している患者さんでも受けやすい治療です。



「放射線」と聞くと不安に思われるかもしれませんが、この治療はがん細胞という『標的』を内側から狙い撃つ、体にやさしい治療法です。私たち放射線技師は、精密な投与管理と安全確認を通じて、皆さまが安心して治療に専念できるよう全力でサポートいたします。



尿検査でわかること ～体からのサインを見逃さないために～

尿検査は、採取時の身体への負担が少なく、腎臓や全身の状態を知るための重要な検査のひとつです。

尿中の蛋白質や血液成分などを調べることで、腎臓や尿の通り道である尿路の異常を見つける手がかりとなります。また、糖やケトン体などを確認することで、糖尿病や代謝異常の発見につながる場合もあります。尿沈渣検査では、顕微鏡を用いて尿に含まれる赤血球・白血球・細菌・結晶などを観察し、炎症や感染、結石の可能性などをより詳しく調べることができます。このように尿検査は、自覚症状が現れる前の病気のサインを見つけるためにも大切な検査です。

順天堂医院では、正確な検査結果を提供するため、検査機器のメンテナンスや精度管理を徹底しています。

検査項目が多い場合は、必要な尿量も増えます。採尿の仕方が検査に影響を与えることもあるため、採尿の手順を守り、検査に必要な量の尿のご提出をお願いいたします。尿量が不足している場合には、再度ご提出をお願いすることがあります。ご負担をおかけする場合がございますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



尿沈渣検査では、機械で尿の成分を自動的に調べた後に顕微鏡で直接確認します。

採尿の手順に沿って採尿していただき、必要な尿量のご提出をお願いいたします。



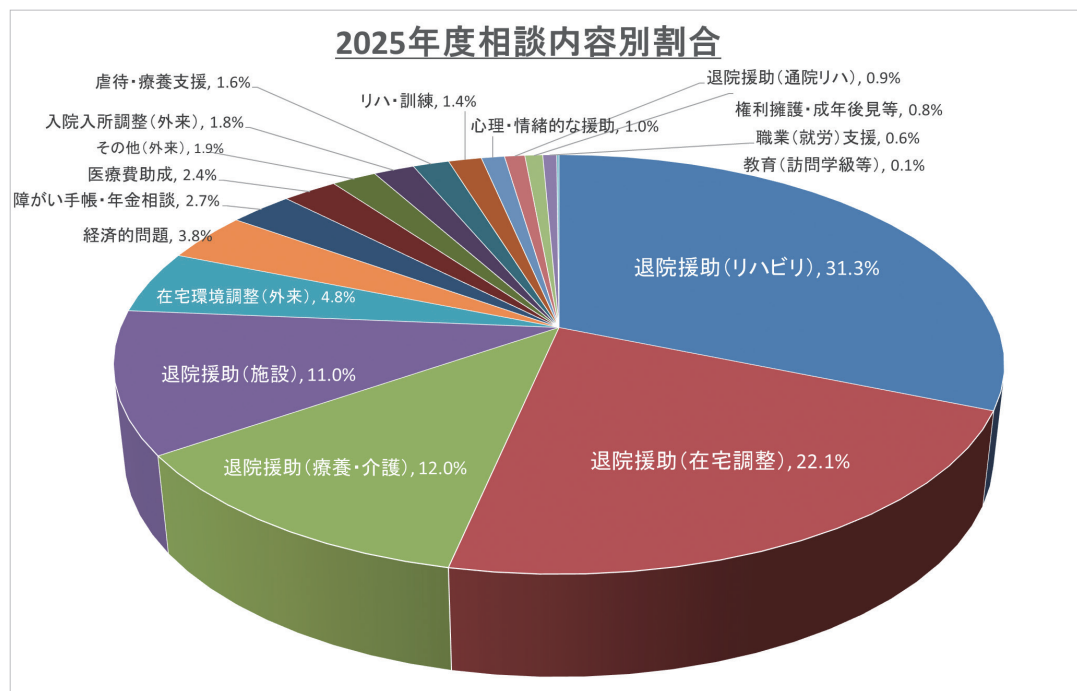


2025年度 医療福祉相談室 相談内容について

当院にはいくつかの相談部門がありますが、「医療福祉相談室」では、治療・療養生活に伴って生じるさまざまな心配事に対して、医療・社会保障制度や福祉サービスを活用しながら解決をはかるとご相談を担当しています。

当室で昨年度受けた相談延べ取扱件数は25,638件（2024年度：24,182件）でした。相談内容の内訳は下記の図の通りで、**退院援助**（リハビリテーション目的、療養目的の転院や介護施設への入所、自宅退院に向けての在宅医療や訪問看護の利用等）のご相談が76%を占めています。他には、**外来に通院中の方の環境調整**（リハ・訓練、入院入所調整や在宅環境調整）、**経済的な相談**、**障がい者手帳や年金の相談**、**医療費助成の相談**など、相談内容は多岐に渡っています。

近年の傾向として、経済的な相談が、613件（2024年度）→963件（2025年度）と約1.5倍（2023年度からは約2.5倍）に、権利擁護・成年後見の相談が、118件（2024年度）→196件（2025年度）と約1.6倍に、虐待や養育支援に関する相談が276件（2024年度）→398件（2025年度）と約1.4倍（2023年度からは4.6倍）に増加していることがあげられます。治療と仕事の両立の困難さを抱える中での経済的な相談や、身寄りのない方の成年後見制度の利用についての相談、虐待・出産育児に対しての養育支援についての院内外からの相談が、年々増加しています。



当室でのご相談を希望される場合は、事前にご予約をお願いいたします（電話でも来室でもご予約可能です）。

なお、入院中の患者さんの退院先に関する相談については退院支援チームが担当しており、入院病棟ごとに担当者（看護師、ソーシャルワーカー）を配置しています。

ご相談を希望される場合は、まずは、担当医または病棟の看護師にその旨お声かけ下さい。



食品の備蓄について

地震や異常気象などの自然災害時は、交通機関や物流が滞ることが予想されます。また電気や水道、ガスなどライフラインが停止することもあるかもしれません。国や自治体からは「最低でも3日分、できれば1週間分×人数分の食料品を備蓄しておくことが望ましい。」との指標が示されています。日常で食べているものをストックしながら消費する「ローリングストック」の方法で備蓄することがおすすめです。万が一の時でも普段と変わらない・温かい食事があるだけでも安心することができます。

避難所では、乳幼児や高齢者、食べる機能が弱くなった方、慢性疾患の方、食物アレルギーの方など避難所で配給される食事が食べられない方もいます。特別な考慮が必要な食品（特殊食品）は手に入りにくくなるのが想定されますので自らの備えも重要です。確認する日を決めて定期的に食品備蓄の見直しを行いましょう。



妊娠と薬

妊娠中にお薬を飲むと、おなかの中の赤ちゃんに影響が出ると聞いたことはありませんか？確かに昔、妊娠中にお母さんが飲んだお薬の影響で、赤ちゃんに問題が起きてしまったことがありました。しかし近年では、お薬も適切に使用すれば、おなかの中の赤ちゃんに問題なくお薬を使用できると言われてきております。逆に自分の判断でお薬を飲むことをやめてしまうことで、お母さんの健康に問題が現れて、おなかの中の赤ちゃんに影響が出てしまうことが心配されるようになってきました。

妊娠を希望する場合、又は、妊娠の可能性がある場合は、ご使用されているお薬について、医師や薬剤師に相談してみましょう。元気な赤ちゃんを産むためにはお母さんが元気であることも大切なことですよ。



2026 年度新入教職員等の 防火防災訓練の実施について

当院では5月22日（金）に新入教職員等を対象とした防火防災訓練を実施いたしました。同日の訓練では、医師、看護師、技師（士）、事務その他、計213名の職員が参加いたしました。

関東近県を震源とする首都直下型地震などの大地震はいつ来てもおかしくない状況にあると言われております。

地震発生時の身体防護訓練では、文京区の防災課の協力により「地震体験車」を活用した南海トラフ地震の揺れを体験しての訓練を実施しました。

また、地震による出火を想定して初期消火訓練も実施しました。例年実施している訓練ではありますが、我々は大震災の中においても患者さんを守る使命を担っております。今後も有事の際にしかるべき対応がとれるよう訓練に努めてまいります。



順天堂大学医学部附属順天堂医院

〒113-8431 文京区本郷3-1-3
TEL：03-3813-3111（大代表）

編集・発行 事務部 管理課
（2026年7月発行）

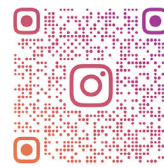


順天堂医院HP

メディカルノート
順天堂医院特集ページ



順天堂医院
公式 Instagram



JUNTENDOIIIN